

人間工学的手法 5

快適な作業環境

光、音、温湿度などの作業環境が作業能率に影響することが知られています。作業にあった採光、不要な騒音の削減、快適な温湿度の維持を心がけましょう。

ゆとりのある作業スペース、また、相互理解に基づく空間分煙による喫煙対策も大切です。



人間工学的手法 6

個人差への配慮

ワークステーション、作業環境にも、個人差に配慮した工夫が必要です。作業台の高さ調節、作業内容や体型に応じた適切な機器配置、エアコンからの気流速度調節などがその例です。

また、多くの人々に平等な環境を提供する技術として、ユニバーサルデザインやバリアフリーがあります。これら人間工学の考え方を、職場へ積極的に導入しましょう。



(参考：中央労働災害防止協会 中央快適職場推進センター発行「平成15年度 快適職場のための人間工学的手法検討委員会報告書」)



【お問い合わせ】
中央労働災害防止協会 中央快適職場推進センター

〒108-0014 東京都港区芝5-35-2

TEL 03-3452-6406・6396 FAX 03-3454-7624

E-mail kaiteki@jisha.or.jp 中央労働災害防止協会ホームページ <http://www.jisha.or.jp>